1. 平成6年度総会

恒例により、大会副委員長(岡村一成教授)を議 長として選出し、以下の報告および審議・決定がな された。

<報告>

- (1) 事業報告
 - 1) 会員移動状況について
 - 2) 会費納入状況について
 - 3) 公開シンポジウム開催について
 - 4) 機関誌発行について
- (2) 日本心理学諸学会間連絡会報告
- (3)第60回大会会計報告 開催校, 鹿児島大学より報告された。

<審議>

(1) 平成5年度決算について

監査委員の馬場房子,田之内厚三両氏の監査を受けた決算書が事務局より提出され,承認された。

- (2) 平成6年度予算案について
- (3) 認定「応用心理士」認定制度の運用について 認定委員会メンバーは新常任運営委員会に一任す ることとなった。1995年度から手引書を作って、ス タートすることが承認された。
- (4) 名誉会員の推薦について

常任運営委員会で推薦された奥沢良雄, 亀井一綱, 斎藤幸一郎, 肥田野直の4名が承認された。

(5) 運営委員の補充について

藤田主一,松浦常夫,蓮花一己の3名が推薦され, 承認された。

- (6) 平成8年度(第63回大会) 開催校について
- (7) 第61回大会・第62回大会開催校挨拶

2. 一般活動報告・事務諸報告

- (1) 第61回大会(平成6年9月9日・10日) 城西大学において開催。盛会のうちに終了。
- (2)『応用心理学研究』第19号の印刷ができ、会員および関係機関に送付した。
- (3) 平成6年度の公開シンポジウムの開催(平成7年2月4日,於:日本大学文理学部)。テーマ「ヒューマン ケア ワークをめぐる諸問題」,企画・司会 越河六郎(労働科学研究所),話題提供 山田美和子(全社協・高年福祉部),山崎慶子(東京女子医科大学病院),待井和江(大阪社会事業短期大学)
- (4) 平成8年度(第63回大会)開催校は中京大学に 決定(大会委員長 神作博教授)。

3. 第61回大会発表状況

個人発表	112	件
パネル・ディスカッション	3	件
公開シンポジウム	1	件
特別講演	1	件

4. 会員移動

新入会員 別掲退 会者 別掲

5. 寄贈文献 別掲

平成5年度決算報告

	权 入		支 出					
項目	実 行 額	予算額	項目	実 行 額	予 算 額			
繰 越 金	642,856	642,856	第60回大会補助費	500,000	500,000			
会 費	3,510,500	3,827,750	シンポジウム費	162,581	250,000			
過年度分	450,000	213,750	印 刷 費	1,809,577	1,800,000			
,	(4,500 * 100)		機関誌	1,654,077	1,700,000			
本年度分	3,010,500	3,564,000	その他	155,500	100,000			
	(4,500 * 669)		通信費	388,371	373,000			
賛 助 会 費	50,000	50,000	機関誌	65,809	73,000			
雑 収 入	148,367	50,000	会 員 名 簿	234,750	250,000			
			その他	87,812	50,000			
			機関誌編集費	122,569	120,000			
	4		名簿作成積立金*	300,000	300,000			
			ミニ通信費	61,194	70,000			
			さいころじすと費	69,334	80,000			
			諸学会連絡会費	7,000	7,000			
			交 通 費	165,000	200,000			
			事 務 局 費	183,737	300,000			
			アルバイト費	623,400	432,000			
			予 備 費	0	88,606			
			次年度繰越金	△91,040	0			
合 計	4,301,723	4,520,606	合 計	4,301,723	4,520,606			

[※]名簿作成積立金は平成4年度分の40万と5年度分の30万を合計して70万となる。

以上の通り相違ありません。

平成6年8月5日

監査委員 田之内 厚 三 ⑩ 監査委員 馬 場 房 子 ⑩

平成6年度予算原案

			収		入					支	10 10	出		
	項		目		予	算	額		項	目		予	算	額
繰	越	金				∆9	1,040	第61回	回大会補	助費			500	0,000
会		費				4,52	1,500	シン	シンポジウム費			200,000		
	過	年	度	分		21	1,500	印	刷	費			1,80	0,000
						(4,500	* 47)		機	関	誌		1,600	0,000
									そ	\mathcal{O}	他		200	0,000
	本	年	度	分		4,260	0,000					2		
						(6,000	* 710)	通	信	費			240	0,000
	賛	助	会	費		50	0,000		機	関	誌		80	0,000
									そ	\mathcal{O}	他		160	0,000
雑	収	入				150	0,000	機関	誌 編 第	長費			140	0,000
								名簿	作成積至	立金*			300	0,000
								3 =	通信	費			80	0,000
								さいこ	ろじす	と費			80	0,000
								諸学会	諸学会間連絡会費				1	7,000
								交	通	費			200	0,000
								事	務 局	費			300	0,000
								アル	バイト	、費			680	0,000
								予	備	費			53	3,460
								次年月	きへの繰	越金				0
合				計		4,580	,460	合			計		4,580	0,460

日本応用心理学会第61回大会報告

(1) 大会参加者状況

正会員 212名 (名誉会員を含む)

臨時会員 13名

学生会員 10名

賛助会員 9名

シンポジスト・パネリスト 11名(非会員)

城西大学教職員・学生 40名

招待者 23名

シンポ・パネル・講演参加市民 約250名

(2) 懇親会参加者 75名

(3) 発表申し込み数 114件

・研究発表 110件(口頭発表87件,ポスター発表23件)

・発表取消し 4件

(4)発表取消し題目

・9月9日 (人格1)

「自己と自我への一考察」 東邦大学 稲松 信雄

9月9日(社会・文化1)

「生涯学習の指導者のイメージ」 文教大学 稲越 孝雄

・9月9日 (ポスター1)

「投資家行動における心理的要因の考察」

東京大学 佐々木真哉

・9月10日 (発達・教育1)

「音響伝達でろうあ者は変わるか

一生まれつきのろうあ者も会話できるかー」

金田 富美

(5) 発表者変更

・「キルリアン写真による気功の心理整理学的研究(Ⅱ)」

○蔵本 逸雄 → ○内田誠也

・「適応度テスト開発について(その2)」

○松井 洋 → ○玉井 寛

・「幼児の成長発達と養育環境条件に関する研究」

○草野美根子 → ○内海 滉

日本応用心理学会第61回大会決算報告

1995年9月9日 於:城西大学

	収	入		支 出	
	摘	要	金 額	摘 要	金 額
大会参加費	,		1,105,000	印 刷 費	1,143,650
(内訳)	正会員予約分	$5,000 \times 167$	835,000	(内訳) 封筒,1号通信	
	正会員当日分	$5,500 \times 34$	187,000	振込用紙,原稿用紙	
	臨時会員	$6,000 \times 13$	78,000	参加はがき,プログラム	
	学生会員	500× 10	5,000	論文集, コピー代, 他	
論文集代金	<u>:</u>		940,500	通信費	504,621
(内訳)	予約分	$4,500 \times 173$	778,500	(内訳) 1号通信郵送	
	当日分以降	$5,000 \times 24$	120,000	プログラム郵送	
	機関扱い	6,000× 7	42,000	論文集郵送,他	
写真掲載料	ŀ	500× 1	500		
プログラム	代金	500× 3	1,500	交通費・宿泊費	63,896
懇親会費			177,000	人件費(アルバイト代)	311,800
(内訳)	予約分	4,500× 26	117,000	文具・消耗品費	52,878
	当日分	$5,000 \times 12$	60,000	懇親会費	579,574
会員より寄	会員より寄付金			記念品費	112,949
広告料			660,000	シンポジスト・講師謝礼費	310,000
雑収入			25,956	写真費	96,002
城西大学よ	り補助金		490,000	大会当日運営費	369,094
学会本部よ	り補助金		500,000	準備委員会運営費	306,710
				事務局運営費	94,282
	合 計		3,945,456	合 計	3,945,456

日本応用心理学会常任運営委員会議事録

1994年度第 4 回(1994年 7 月)

日 時:1994年7月26日 (火) 18:00~20:00

場 所:日本女子大学目白キャンパス 泉山館2F

第3会議室

出席者: 岡村,大久保,大島,大塚,大村, 恩田,高嶋,長谷川,林,平野,井上 事務局(高橋,久東,莊村,渡辺)

報告事項:

1. 大会準備状況 (岡村会長)

現在時点で大会参加予約状況は、165名、口頭発表90件、ポスター発表24件、懇親会参加43名である。 大会のプログラムは8月1日に発送。運営委員会は第1日の12:05からを予定。なお、今回は記念シンポ終了後記念撮影を考えている。懇親会は学内で行うが、帰途の足は学内バスを予定している。

2. 機関誌編集委員会

次号は、12編の投稿論文(内,資料3編)、1編の依頼原稿で構成。すでに印刷所に依頼済み。61回大会当日に配布予定。なお、印刷所を見積り査定の上変更した。

3. その他

日本学術会議選挙結果が報告された。

大山 (新任), 村上 (再任), 鹿取 (再任) の三 氏が選任された。

審議事項:

1. 決算・予算書について

決算書の記載事項のうち、名簿作成積立金については、欄外に積算額が別途明らかになるような表示をする方がよいという意見が出され、了承された。予算書についても、上述の点が付帯された上で、決算・予算書とも事務局案どおりで承認された。

2. 認定「応用心理士」の件について

全12頁にわたる草案が提示され、種々にわたっ

て検討が行われた。

交わされた議論の内、焦点は申請書類の必要事項(特に資格要件とその表現方法等)に関するものであったが、今回の常任運営委員会においては結論をみるには至らなかった。しかし、予定された発効時期が迫っていることも勘案され、今回は以下のような諸点が合意され結論となった。

- a. 常任運営委員会の内に、認定制度作業部会を本日中に設け、この部会で鋭意検討を行い、 その結論を大会時の運営委員会に直接諮ることとする。
- b. aの結論を受け、作業部会のメンバーを委員 長任命により以下のように決定する。作業部 会メンバー;大久保、大塚、大村、岡村、島 田、高橋、林、以上7名の委員とする。
- c. 今後の作業進行予定としては、総会での議 決を受けた後、認定委員会を設立し、具体的 な問題点(例えば、事務処理に関わる事項等) を詰めた上で、可能ならば来春(4月)発効 を目指したい。
- 3. 運営委員の推薦について

松浦常夫,藤田主一,蓮花一己の3氏が推薦され承認された。

4. 名誉会員の推薦について

斎藤幸一郎,肥田野 直,奥沢良雄の3氏が推 薦された。

※上記3, 4, に関しては、事務局においてしかるべき手続きを進めることとなった。

- 5. ・第63回大会開催校については、未だ未定である。次回常任運営委員会においては決定したい旨が話し合われた。
 - ・今回は新入会員の審査は無し。
 - ・本年度大会発表者で未だ会費を納入していない会員(特に新入会員)に関しては、プログラム等の発送を見合わせる。納入が確認され 次第、諸手続きを進めることが確認された。
 - · 次回常任運営委員会開催日 10月21日 (金)

1994年度第5回(1994年11月)

日 時:1994年11月15日(火)18:00~20:00

場 所:日本女子大学目白キャンパス 泉山館 2 F

第3会議室

出席者:高嶋、稲毛、大久保、大塚、大村、岡村、

荻野, 垣本, 神作, 越河, 中村, 正田, 村井 事務局(高橋, 久東, 渡辺, 荘村)

報告事項:

- 1. 常任運営委員選挙開票結果について
 - ・開票結果報告の前に、各委員の自己紹介と中村 委員よりシドニー大学からの帰国報告があった。
 - ・新たに、荻野、稲毛、田中3氏が委員として推薦され、23名の常任運営委員が選出された。内22名が受諾し、1名が辞退した。

2. その他

・岡村委員より

第61回大会の開催状況(別紙)が報告された。 また、論文集は12月中に発送予定とのことであった。

・高嶋委員より

第62回大会は、共立女子大学神田文科系校舎で 平成7年9月8、9日に開催される予定であり、 心理学科がないため、教職課程研究室の専任、 非常勤の先生方が協力して主催する旨が報告さ れた。

11月30日に,第1回準備委員会が行われる予定である。

また,公開シンポジウムに対するご意見を,ぜ ひ伺いたいとのことであった。

- ・機関誌編集委員会、村井委員より 機関誌19号が出来上がり、近く各会員に発送予 定である。
- ・高橋事務局長より

国際会議"1995 ROBOTICS AND AUTO-MATION"の協賛引き受け済であることが報告された。

審議事項:

- 1. 認定「応用心理士」関係の運用について(岡村)
 - ・申込用紙は作成済である。
 - ・認定証の作成をどのようにするか。来年4月に 受け付けできるよう,準備したい。
 - ・今までの準備委員会は第61回大会総会に会則等を提案するまでであり、5、6名のメンバーで、これから新たな準備委員会を発足すべきである。高橋事務局長より、今までの関わりから、岡村、大村両委員に、次回本委員会までにメンバー案作成の依頼がなされた。
- 2. 平成6年度公開シンポジウムについて(越河)

- ・11月26日に開催予定であったが、各スピーカー の都合により、延期したい。テーマは「ヒュー マンケアワークの諸問題」で、看護、介護、保 育の各領域からの話題提供者を予定している。
- ・日時は、2月4日(土)14:00~17:00(終了 後本委員会開催)、会場は、日本大学文理学部で 計画を進めてはどうか。
- ・ポスターを作成し、学生や現場の人たちにも宣 伝したい。
- 3. 第63回以降の大会主催校について

中京大学(神作案),東海大学短期大学(岡村案)などが候補に挙がっているが、未定。中京大学は他の学会主催と重なるため、できれば第65回あたりの方がよい。岡村委員が次回までに東海大学短期大学について情報を集めて報告することになった。

4. 編集委員会委員長選挙

「任期2年2期までで3選は認めない」の条件で、編集委員の中から選出したらどうかなどの意見が出された後に選挙が行われた。

選挙結果は,越河6票,垣本3票,大塚2票,神作,恩田各1票であった。越河委員が都合で辞退し,次点の垣本委員に決定した。

5. 新入会員審査

- ・20名の審査申請あり。
- ・内5名が学部学生(ただし、通信教育生で現役学生の年齢ではない)、身分がないなどの者で、学歴は高卒でも認めるか、年齢を考慮するかなどの議論がなされた後、学部学生については、卒業後申込みをしたらどうかとガイドして見合わせていただくなどの案が出された。事務局長に前例がないかどうかを含め詳しい事情調査が依頼された。
- ・他の2名については紹介者なしであるが、身分があるため事務局長判断で入会を承認することとなった。
- ・会則にはないが、今後社会人入学制度が広まる ことが予想されるため、学生の会員の幅を広げ るなどの検討が必要である。
- ・以上の検討がなされた後,15名の新入会員の入 会が承認(内2名は事務局長問い合わせ後承認) され,5名が次回に保留となった。
- 6. 次回常任運営委員会開催日 12月16日(金)

7. その他

・岡村委員より心理学諸学会間連絡会(年4回, 次回12月7日)のメンバーを交代したいとの申 し出があった。

現在, 岡村, 平野両委員がメンバーであるが, 事務局長と議長にメンバー案作成が依頼された。

1994年度第6回(1994年12月)

日 時:1994年12月16日(金)18:00~19:20

場 所:日本女子大学目白キャンパス 図書館 5 F 会議室

出席者:高嶋,稲毛,大久保,大島,大塚,大村, 岡村,荻野,恩田,亀井,神作,斎藤, 中村,長谷川,林,平野 事務局(高橋,荘村,渡辺)

報告事項:

- 1. 第62回大会準備状況(高嶋会長)
 - ・11月30日に第1回準備委員会を開き、シンポジウム4件と公開講演の予定を立てた旨が報告された。シンポジウムに関しては、教育学と心理学との接点、臨床関係、食物学科と被服学科の比較などを予定している。公開講演は間宮武氏にエイズ・性教育に関わる話を依頼する予定。また、別の形式で鳩山邦夫氏に教育関係の講演を考慮中。
 - ・第1号通信は2月下旬までに届くよう準備している。
- 2. 文部省「研究成果公開発表」の募集(高橋)
 - ・文部省より「研究成果公開発表」の募集について通知があり、公開シンポジウムに150万円以内で助成金が出るという内容。
 - ・実施時期が平成7年7月1日~8年3月31日で あること。
 - ・申込みは平成7年1月20日までに所定の書類を 提出する。
- 3. 公開シンポジウム準備状況 越河委員が欠席のため、「準備は順調に進行して

いる」との伝言が報告された。会場は日本大学文理学部に決定した。

4. その他(高橋)

・社団法人人間生活工学研究センターから,「人間 生活工学サミット」開催に際し,協賛名義使用 の許可願いがあった。参加費不要の場合は基本 的に協賛に参加していることで、今回も承認した。 ・正田委員の夫人が亡くなられ、当学会として供花。 審議事項:

- 1. 認定「応用心理士」運用小委員会委員の選出(岡村) 「資格申請の手引き」を作成したメンバーを委 員に選出してはどうかとの提案があった。この案 は承認され、大村・林・大久保・大塚・高橋・岡 村・中村の7委員に決定。なお、委員長には大村 委員が決まった。
- 2. 第63回大会主催校について

東海大学短期大学で検討した結果,次年度は見送ることになった。これを受けて中京大学で教室会議を開き,63回大会を引き受けることを了承。 準備委員長は後日決める。

3. 新入会員審查

- ・まず前回の持ち越し分である学部学生の対応について議論した。社会的体験を重視するか、準会員と学生会員を分けるか、もう一度学歴を調べるかなどの意見が出され、学歴を含んだ審議がなされた。
- ・その結果,紹介者に問い合わせて,大学を卒業 していれば承認,否であれば保留と決めた。
- ・来年の総会までに細則を作成し提案する。それ まで待ってもらう。
- ・新規の申込者については2名承認され,1名は 卒業見込みのため検討する。
- 4. 次回常任運営委員会開催日 2月4日(土)シンポジウム終了後
- 5. その他
 - ・垣本委員が欠席のため、編集委員メンバーは次 回に報告。
 - ・心理学諸学会連絡会(年4回)のメンバー交代 については2月4日までに事務局長が打診する。
 - ・機関誌訂正文の送付の経緯について,大村委員 より質問があった。9月の大会時に機関誌を受 け取った会員に送付したものであるが,詳細は 編集委員長が欠席のため不明。
 - ・心理学諸学会連絡会より、各学会の大会日程等が報告され、「さいころじすと」の郵送分担金が決まったこと、日本心理学会が社団法人になったのを機会に名簿管理を依頼してはどうかという案が出たことも報告された。

1994年度第7回(1995年2月)

日 時:1995年2月4日(土)17:00~18:00 場 所:日本大学文理学部 本館5F 心理学科 自然研究室

出席者:高嶋,稲毛,大久保,大塚,大村,岡村, 荻野,垣本,神作,越河,田中,中村, 長谷川,林,平野,正田,村井,太田垣, 奥沢

事務局(高橋, 久東, 渡辺, 荘村)

報告事項:

1. 第62回大会準備状況について(高嶋大会準備委員長)

現在, 1号通信の初校が行われている段階で, 2月末には発送する予定である。

特別講演は、性差の問題のテーマとすることで 間宮先生にお願いしている。

シンポジウムは(1)中村先生による死と再生に関するもの(2)松井先生による地震および災害に関するもの(3)松崎巌先生による教育と心理学の接点からいじめの問題(4)大貫敬一先生企画・司会で臨床分野からカウンセリングに関するものの4つのテーマで準備が進められ、3月末までに決定の予定である。

2. 認定「応用心理士」運用小委員会より(岡村委員) マークのデザインは、JAAP を立体化したもの で、ほぼ出来ている。

手引書は、用語等を修正し、資格審査料に関して審査料1万円、認定料3万円と明記する。

事務局は、富士短期大学(岡村委員所属)で引き受ける。

認定書は、資料にあるように日本心理学会のものを参考にし、日付を上にする、「~認定証」の文字を2行にする等を修正して、ケースに入れて発行する。

認定証の体裁についての質疑応答があり、また、・最初に手引書(500円)を全会員に普及のため無料で送付してはどうかの提案があり、62回大会のプログラム発送予定の7月初めに同時に発送する、・学会として収入・支出に関する予算化が必要なこと、・電話での問い合わせなどの煩雑さを見越して、大会1号通信でも予告をする等の必要性が論じられた。

3. その他

事務局より、日本顔学会によるシンポジウム「顔」 の企画に協賛することが報告され、了承された。 審議事項:

1. 機関誌編集委員の選出について

垣本編集委員長より、編集委員は越河、村井、 大塚、高橋、大久保各委員の6名でスタートする 旨が提案され、承認された。

- 2. 諸学会間連絡会委員の選出について 荻野委員,高橋事務局長が選出された。次回の 連絡委員会は3 月8 日 (水) である。
- 3. 第64回大会主催校・機関について 第63回大会('96) は中京大学に決定しており、 第64回大会('97) は東京でということで駒澤大学 が候補になっている。中村委員より、同大学の学 科内での同意は既に取り付けてあるので、"駒澤ら しく"開催したいとのことであった。

4. 入会規則の一部変更について

応用心理士の資格を取得する目的で、大学通信教育課程の学生の入会希望が増えている。職業が「主婦」であるケースもあるが、本来規則では学歴を問わない。ただ、資格を取るならば学歴だけでなく職歴や業績も必要であり、認定委員会でも問題にすべきこととなる。本来は、学会入会条件と資格の取得条件は別のものであるから、入会に際しては「学歴不問」に従って良いのではないか。ただ、入会すればすぐ資格が取れると勘違いされても困るし、学会活動等で業績を積む→認定を受ける、の過程が必要であることを認識していただくなどの措置が必要である。

主婦であり学生というのを認めるかは、入会規則上では良いが、資格目当てとすると心情的には受け入れられないことでもあるので、紹介者に対処していただくのも一案である。

以上のような様々な議論がなされた後,資格に は業績が必要という認定条件もあることから,従 来通りの入会条件で入会は認めるという結論に達 した。

5. 新入会員審査

3名の申込みがあり、内2名は承認された。1 名については、4.で議論されたことが絡むので、 事務局より本人に問い合わせることにした。

6. 次回常任運営委員会開催日

3月24日(金)18:00より開催予定で、場所は 日本女子大、日大、共立大のいずれか未定である。

1994年度第8回(1995年3月)

日 時:1995年3月24日(金)18:00~20:00 場 所:日本大学文理学部 6号館1F 会議室B 出席者:高嶋,稲毛,大久保,大塚,大村,岡村,

荻野, 垣本, 神作, 中村, 長谷川, 林, 平野, 村井

事務局(高橋, 久東, 渡辺, 荘村)

報告事項:

1. 第62回大会準備状況について(高嶋大会準備委員長)

第1号通信836通を2月27日に発送済みである。 内3通が住所不明であった。また、応用心理士の 案内を同封した。

3月20日現在, 6件の発表申込みと18件の参加 申込みがある。

シンポジウムの企画は4月末までに目途をつける予定である。特別講演と公開シンポジウム1つは、すでに決定している。

2. 諸学会間連絡会について(高嶋)

第4回連絡会が3月8日に開かれ、各学会の動向、今年度各学会の開催予定、阪神大震災へのお見舞い、「サイコロジスト」第32号が発送済みであること、第33号を次回検討予定であることなどが報告された。

また,発達心理学会の柏木委員より,日本心理 学会が法人化された意義について問いかけがあり, さらにそれに伴って,学会費,事務上の問題など を各学会で検討してはどうかとの提案があったと のことである。

3. 編集委員会より (垣本)

現在, 9編投稿があり, 1編は返却し, 残り8編(内2編は資料)で次号機関誌を完成させたい。できれば9月の大会に間に合わせたい。現在, 査読を依頼中である。また, 投稿は一応4月末が締め切りであるが, 随時受け付けている。しかし, もう次号については8編あるので, これから投稿されるものは次々号になる。

4. 認定「応用心理士」運用小委員会より (岡村) 案内は,大会第1号通信で発送済みである。既 に4通,手引き書の申込みがあった。手引き書の 印刷見積りを依頼済みで、校正を待つ段階である。 シンボルマークのデザインコンセプトとデザイナーが紹介され、できれば学会のシンボルマークとしても使いたい。デザイナーには了承済みである。 また、大会当番校が手引き書を発送する場合の送料は、差額を大会で立て替えていただき、後で支払う事にする。

5. その他

事務局より、・IEE ロボティクスへの協賛およびプログラム・学会による国際会議開催補助金募集(文部省)・海外渡航旅費援助((財)電気通信普及財団)の3点の書類が回覧された。

岡村委員より,第61回大会決算(別紙)が報告 された。

審議事項:

1. 認定「応用心理士」認定審査委員の決定について 認定審査委員の推薦を、いつまでに、どのよう に行ったらよいか。

4月の本委員会で若干名(10名ぐらい)を決定し、委員長は委員の互選によったらどうか、などの提案があった。推薦の方法として、いろいろな領域から選ぶべきである、素案の名簿を出して欲しいなどの意見が出された。次回本委員会(4月)までに、岡村委員と事務局長で素案を出すことになった。

また、岡村委員より、名誉会員には最初に認定 書を差し上げたいという提案がなされたが、申請 書類を一般会員と同様にするか、お出しする順序 をどのようにするか、亡くなった方をどのように 追跡するか、など懸案事項が多く、継続で審議す ることになった。

2. 平成7年度公開シンポジウムについて

早めに検討する。前回公募したが反応がなかったので、本委員会で決めたい。

次回本委員会で意見を出して欲しい。本学会大 会のシンポジウムのテーマ (いじめ,災害,臨床) とオーバーラップしないようにすべきである。

過去数年間のテーマを調べた上で,良いテーマ で開催したい。

3. 新入会員審査

7名の申込みがあり、全員承認された。

4. 次期常任運営委員会開催日について 4月25日(火)18:00より、日本女子大学目白

キャンパスで開催することになった。

1995年度第1回(1995年4月)

日 時:1995年4月25日(火)18:00~19:35 場 所:日本女子大学目白キャンパス 泉山館2F 第3会議室

出席者:高嶋,稲毛,大久保,大村,荻野,恩田, 垣本,神作,長塚,中村,林 事務局(高橋,荘村,渡辺)

報告事項:

- 1. 第62回大会準備状況について(高嶋会長)
 - ・4月24日現在の申込み状況の報告

返信総数 ………… 33件 大会参加者 ……… 24名 論文集 ……… 30件 懇親会出席者 …… 9名

- ・臨床心理の大貫敬一氏によるシンポジウム企画 が不可能となったため、心理学と家政学に関す るテーマに変更する予定である。また、松崎巌 氏によるシンポジウムのテーマをいじめの問題 から、留学生の様々な問題に変更したいので、 シンポジストの推薦をお願いしたい。それに対 して依田氏、東大異文化研究所の井上氏、寺内 氏の三氏が推挙され、今後検討することとなった。
- 2. 編集委員会より (垣本委員)

原著・資料合わせて7編を現在査読中である。 中国の先生が書かれた論文に関しては、訳者をど のように扱うかを検討している。

1論文について査読者は2名としている。

3. その他

事務局より、常任運営委員会の議事録第4~7 回を配布した。その内、次の2箇所を訂正した。 ①第5回 報告事項

- 1. 遠方のため辞退した -----> 辞退した ②第7回 報告事項
- 1. 松井先生 → 村井先生 審議事項:
- 1. 平成7年度公開シンポジウムについて 過去20年間のテーマのリストを参照にしながら、 今年のテーマを検討した。各委員より活発な意見 が出され、①青少年の不安と希望、②組織とリー ダーシップ、③ボランティアとリーダーシップ、 ④家庭教育の問題、⑤災害とボランティア等のテー

マを煮詰めて, 次回に再検討する。

2. 日本心理学会に対する発達心理学会からの提案 文書(別紙参照)について

社団法人となった日本心理学会と細分化している諸学会との今後の関わり方について、大村委員より日本心理学会の考えを伝えていただいた。共通の名簿は選挙の母体となっているため無理であり、提案を実行するには資金が必要とのことで進展は難しい。

事務センターで名簿を作り、主体性を持ちなが ら必要なデータを供出してはどうかとの意見も出 た。本学会としては周囲の学会の様子を見ること とした。

3. 新入会員審査

8名の申込み者について審査の結果、全員承認された。

- 4. 次回常任運営委員会開催日 6月9日(金)
- 5. その他

神作委員より、次回常任運営委員会で承認された新入会員は大会申込みが間に合うかとの質問があった。審議の結果、5月に委員会を開催するべきところを6月に変更となったため、会費を早急に納入することを条件に、臨時に認めることとした。

1995年度第2回(1995年6月)

日 時:1995年6月9日(金)18:15~19:50 場 所:日本女子大学目白キャンパス 図書館5F 会議室

出席者:高嶋,稲毛,大久保,大島,大塚,大村, 岡村,荻野,恩田,垣本,神作,越河, 中村,長谷川,林,村井,斎藤 事務局(高橋,荘村,渡辺)

報告事項:

- 1. 第62回大会準備状況について(高嶋会長)
 - ・現在の申込み状況の報告

- ・大会プログラムは7月20日頃、会員に届くように準備している。
- ・前回、シンポジウムのテーマ変更に伴い検討課

題となっていたシンポジストの件は、横浜国立 大学の依田明氏に決定した。従って、4テーマの 各シンポジストも決め、準備は着々と進行して いる。

- ・これから座長の依頼をするので、委員の方々に 協力を要請した。
- 2. 機関誌編集委員会より(垣本)

原著・資料合わせて7編を査読したが、掲載可能6編となった。9月大会時に配布できるよう努力したい。

3. 認定『応用心理士』運用委員会より(岡村) 日本応用心理学会認定『応用心理士』資格申請 の手引きが刷り上がり、各委員に配布し、認定証 は回覧した。尚、手引きは第62回大会プログラム と一緒に会員全員に送付する。

資格申請に対して当面は10名で審査する予定であり、名誉会員には無料で差し上げたい。また、大会の会員総会の中でシンボルマーク作成のデザイナーに感謝状を差し上げたい。スタートに際し、優遇措置を考えたいので、その点も審議してほしい。4. その他

- ①村中兼松名誉会員が平成7年6月2日亡くなられ、当学会より供花。
- ②日本神経回路学会第6回大会の案内を回覧。
- ③ロボティスク・オートメーション国際会議の終 了の挨拶状を回覧。
- ④1995年安倍フェローシップ奨学研究者の申請公募を回覧。
- ⑤西宮ボランティアネットワーク著「行政とボランティアの活動記録」がこの度、NHK出版より発売されることになり、案内文を回覧。

審議事項:

- 1. 平成7年度公開シンポジウムについて 前回提案された4テーマについて検討し審議し た結果、「青年の不安と希望」に絞られた。その際 学生相談との関連、無関心層についても取り上げ てはどうか、どこに焦点をあてるかなど活発な意 見が取り交わされた。オーガナイザーには恩田委 員が引き受けて下さり、11月開催を目処に、次回 までに企画して下さることに決まった。
- 2. 平成6年度決算報告について (別紙資料) (高橋) 機関誌編集費は予算額を下回り,85,418円の支出であることが村井委員より報告された。それは

会員の場合,査読料を中止したことによるもので ある。実行額を修正することで了承。

- 3. 平成7年度予算案について(別紙資料)(高橋) 岡村委員より『応用心理士』の収入・支出を予算案に計上するよう提案された。また『応用心理士』の会計は特別会計として独立採算とする意見もだされたが、その場合、税務上の問題が生じないか、次回までに検討することとなった。
- 4. 新入会員審査

13名の申込み者について審査の結果,全員承認された。

- 5. 次回常任運営委員会開催日7月21日(金)
- 6. その他

岡村委員より『応用心理士』認定審査委員会委員(案)が提出され、承認された。大久保康彦、大塚博保、大村政男、岡村一成、高嶋正士、高橋たまき、中村昭之、林 潔、平野 馨、村井健祐各委員の10名である。委員長には互選により大村委員に決定した。任期は平成7年6月1日から3年と決定。

次に、報告事項3.で提案された会員の優遇措置に関して審議した。会員歴2年の条件を、スタート期間のみ会員ならば申込みできるという内容の措置である。審議の末、規則の条文と不適合となるため、優遇措置は採らないことに決定。

会員異動

新入会員(1994.4月~1995.3月)

(氏名, ①現住所, ②所属)

張替 直美

②東京都立医療技術短期大学 元山 美貴

②奈良県立医科大学附属看護専門学校 助産学科 相良 陽一郎

②学習院大学大学院人文科学研究科博士後期課程 日沼 千尋 ②東京女子医大看護短期大学部 講師 尾之江 猛志

②大阪府中央労働事務所職業相談課 鎌滝 雅彦

②太陽ベニア(株) 大井 睦美

②東海大学短期大学部 浅野 智子

②横浜市立大学医学部附属浦舟病院 関戸 啓子

②川崎医療福祉大学保健看護学科 岩村 暢子

②㈱オフィス コギト中村 安子

②大東文化大学 小森田哲哉

②東海大学短期大学部 岡村 千鶴

②東京女子医大看護短期大学部 永川 裕之

②宮崎県警察本部鑑識課 小林 東

②東海大学短期大学部 田中 直子

②北星学園大学大学院

水口 有

②富士通(株)

中島 彩花

②日本大学大学院心理学専攻博士前期課程 青木 智子

②立正大学大学院文学研究科博士課程 青山真奈美

②北星学園大学文学研究科 原口 知子

②群馬県立医療短期大学看護学科 張江 洋直

②千葉明徳短期大学 幸田るみ子

②北里大学東病院 寺沢 充夫

②玉川大学工学部 土田 春恵

②千葉明徳短期大学 渡辺 憲子

②名古屋大学医療技術短期大学 網野 武博

②東京経済大学 樋口 康彦

②関西大学大学院博士課程 内田 智章

②法務省矯正局和園学園 藤井 博英 ②常磐大学人間科学研究大学院 在学 宇佐見 覚

②市立秋田総合病院 山下 幸子

②福岡自己開発センター及び医療専門学校講師 樋口 日出子

②秋田県立衛生看護学院 三輪 全

②埼玉県立狭山経済高校 藤田 忠一

②博愛クリニックグループ アシュラム心理院 渡辺 美香

②練馬区立大泉北小学校 非常勤栄養士 高橋 晃

②筑波大学心理学研究科大学院生 片寄 隆正

②航空自衛隊航空安全管理隊 荒巻 定仁

②志木市立救急市民病院 薬剤師長 橋本 悦子

②香川県立図書館

瀧本 誓

②東北女子短期大学 専任講師 井手 奈津代 ②(株)パイロット 佐伯 典彦

②東京法科学院専門学校 大橋美華子

②丸紅健康保険組合 川島 美和

②創価大学通信教育部 3 年 山本美代子

②(株)マミー 山崎 麻里

②近畿花王販売㈱南大阪支店 佐渡山律子

②沖伸電設 福安 幸枝

②創価大学通信教育部在学 田村美智子

②渡辺 好章

②城西大学経済学部教授 酒井久美代

②立教大学嘱託 櫻井由美乃

②千葉県立衛生短期大学 広瀬 清人

②東北福祉大学 島袋 香子

②北里大学看護学部

石塚 明子

②共立女子学園 大学事務局 加川 英司

②広島県警察本部科学捜査研究所

退会者

福岡 孝純, 袴田 俊一, 早川 滋人, 樋口 豊, 今井 保次, 岩城 衆子, 泉 ひさ, 川村 幹, 窪田 悟, 宮崎 和子, 望月 葉子, 村上 英世, 西江 美緒, 尾形 健, 大田 昭夫, 渋谷 俊雄, 繁永 芳巳, 園谷 高志, 角 隆司, 田中千鶴子, 竹島 洋一, 田崎 修, 豊田屋寿之

死 去

古武 弥正,真辺 春蔵,望月 衛,村中 兼松, 塩入 円祐,鈴木 達也,武田 正信,横瀬 善正, 大平 勝馬 (以上 名誉会員)

猫文贈客

学会事務局に以下の雑誌類・著書(平成7年7月まで)が寄贈されていますのでご利用下さい。

一定期刊行物一

母子保健情報(恩賜財団母子愛育会)1994 第30号, 第31号

CODER NEWS LETTER(発達科学教育センター) 1993 Vol. 28, 1995 Vols. 33, 34

電気通信普及財団研究調査報告書(電気通信普及財団)1995 No.9

発達研究:発達科学研究センター紀要(発達科学研究教育センター) 1994 VoL. 10

Hiroshima Forum for Psychology (Hiroshima University) 1994 Vol. 16

放送研究と調査 (NHK 放送文化研究所) 1993 3, 1994 9, 10, 11, 12, 1995 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7 International Association of Traffic and Safety Sciences (国際交通安全学会) 1994 Vol. 20

Nos. 2, 3, 4

児童教育研究(安田女子大学児童教育学会)1995 第4号

人事試験研究(日本人事試験研究センター) 1994 Nos. 152, 153, 1995 Nos. 154, 155 上智大学心理学年報(上智大学心理学科)1995 第19巻

科学警察研究所報告—防犯少年編— (科学警察研究 所) 1994 35巻1号, 2号

科学警察研究所報告一交通編一 (科学警察研究所) 1994 第35巻 2 号, 1995 第36巻 1 号

関係学研究(関係学研究編集委員会)1994 第22巻 第1号

慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要(慶應義塾大学大学院社会学研究科)1994 第39号,第40号研究紀要(鹿児島女子大学)1994 第16巻 第1号,1995 第16巻 第2号

化粧文化 (ポーラ文化研究所) 1994 No.31, 1995 No.32

基礎心理学研究(日本基礎心理学会)1995 第13巻 第1号, 第2号

こども家庭福祉情報(恩賜財団母子愛育会日本総合 愛育研究所)1994 Vol.9

明星大学心理年報(明星大学心理学研究室)1993 第13号

名古屋大学教育学部紀要・教育学科(名古屋大学教育学部)1994 第41巻 第1号

名古屋大学教育学部紀要・教育心理学科(名古屋大学教育学部)1994 第41巻

日本語国際センター紀要(国際交流基金日本語国際 センター)1995 第5号

人間関係学研究(日本人間関係学会)1994 第1巻 第1号

応用社会学研究(東京国際大学大学院社会学研究科) 1994 第 4 号

産業安全研究所年報(労働省産業安全研究所) 1993年 産業安全研究所研究報告(労働省産業安全研究所) 1994

産業安全研究所技術指針(労働省産業安全研究所) 1994

ガス防爆指導と評価 (日本教育評価研究会) 1993 Vol. 39 No. 9, 1994 Vol. 40 Nos. 9, 10, 11, 12, 1995 Vol. 41 Nos. 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7 システム科学研究所紀要 (早稲田大学システム科学研究所) 1995 No. 26

スポーツ心理学研究(日本スポーツ心理学会)1994 第21巻第1号

テレビ・ラジオ番組個人視聴率調査・全国結果表(NHK 世論調査部)1994 6月,11月

テレコム社会科学学生賞入賞論文集(電気通信普及 財団)1995 No. 4

東海大学紀要(東海大学教育研究所)1994 第2号 東京大学教育学部紀要(東京大学教育学部)1994 第34巻

東京学芸大学紀要(東京学芸大学紀要出版委員会) 1995 第45集(平成5年度)総索引

筑波大学心理学研究(筑波大学心理学系)1995 第17号

早稲田心理学年報(早稲田大学文学部心理学系)1995 Vol. 27

山梨大学教育学部紀要(山梨大学教育学部) 1994 第8号 第9号

山梨大学教育学部研究報告(山梨大学人文社会科学 系)1994 第44号

一図書一

関係学ハンドブック (関係学会編) 1994 心理の仕事 三木善彦・瀧上凱令・橋英彌・南徹弘 編著 朱鷲書房 1994